

令和 2年 2月

村上裕樹 学位論文審査要旨

主査 梅北善久
副主査 磯本一
同 藤原義之

主論文

Increased regulatory B cells are involved in immune evasion in patients with gastric cancer

(制御性B細胞の増加は、胃癌患者の免疫回避に関与している)

(著者：村上裕樹、齊藤博昭、清水翔太、河野友輔、宍戸裕二、宮谷幸造、松永知之、福本陽二、蘆田啓吾、坂部友彦、中山祐二、藤原義之)

令和元年 Scientific Reports DOI:10.1038/s41598-019-49581-4a

参考論文

1. Neutrophil-to-Lymphocyte ratio as a prognostic indicator in patients with unresectable gastric cancer

(切除不能胃癌患者における予後指標としての好中球リンパ球比)

(著者：村上裕樹、齊藤博昭、清水翔太、河野友輔、宍戸裕二、宮谷幸造、松永知之、福本陽二、藤原義之)

令和元年 Anticancer Research 39巻 2583頁～2589頁

審査結果の要旨

本研究は胃癌患者において、免疫抑制性サイトカインであるIL-10を産生するB細胞を制御性B細胞と定義し、末梢血や胃癌組織での割合、免疫に関する機能解析及び免疫組織化学による予後の解析を行ったものである。その結果、末梢血では胃癌患者で制御性B細胞の割合が高く、さらに胃癌組織でその割合は増加していた。機能解析では制御性B細胞によるCD4+T細胞の増殖能及びインターフェロン γ の産生抑制が認められた。免疫組織化学では、胃癌組織中に制御性B細胞が多く存在するほど予後不良であることが判明した。本論文の内容は、胃癌における癌免疫の分野で、制御性B細胞の重要性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。